

リンドウの促成栽培

第 2 報 系統適応性

山口 茂・*後藤 渉 (熊本県農業試験場園芸支場・*熊本県果樹園芸課)

Sigeru YAMAGUCHI and Wataru GOTOU : Forcing Culture of *Gentiana triflora* var. *Japonica*

2. Difference of Strain

リンドウは、早生、中生、晩生の系統が栽培され、6月から10月まで出荷されている。これらの各系統を用いて、株冷蔵による4～5月開花の促成栽培に対する適応性について検討を行ったので報告する。

1. 材料及び方法

熊本県阿蘇郡一の宮町荻の草で栽培されている早生、中生、晩生の3系統(4～5年生株)を1987年9月20日に掘り上げ、水洗後オーソサイド水和剤300倍液に30分間浸せきし、湿ったパーライトでパッキングし、直ちに2℃で60日間冷蔵した。出庫時12℃で順化し、11月26日ガラス温室内に定植した。試験区は、1区12株の2区制で行った。栽植密度は条間33cm×株間20cm3条植え、施肥量はa当たり(kg)N:P₂O₅:K₂O=2.5:3.0:2.6とし、温度管理は夜間設定温度を10℃とした。

2. 結果及び考察

発芽始めは早生、中生、晩生系統に差はみられなかったが、発芽揃いは早生系統が早かった。

生育は莖長、節数ともに早生系統の生育が早く、中生、晩生系統は遅れた。

開花始めは、早生系統が4月8日、中生系統が5月2日、晩生系統が5月26日で、平均開花日は、早生系統が5月1日、中生系統が6月9日、晩生系統が6月16日であった。しかし、中生、晩生系統は開花期が遅れ、花色が極端に淡くなり品質が低下したため、7月1日に調査を打ち切った。

切花形質をみると、切花長は、早生系統で68cm、中生系統で80cm、晩生系統で80cmと中生、晩生系統が長くなった。莖径は早生系統で2.6mm、中生系統で2.8mm、晩生系統で3.3mmと、早生系統で細く、中生、晩生系統で太くなった。節数は早生系統が20.1節、中生系統が23.8節、晩生系統が23.1節と中生、晩生系統が多かった。花段数及び花数は、早生系統で1.8段の9.3個と少なく、中生、晩生系統が多くなった。切花重は、早生系統が12.7gと軽く、中生、晩生系統が重くなった。

以上の結果、早生系統が、中生、晩生系統より早く開花し、4～5月開花の促成栽培に適する系統と思われる。

切花形質は、早生系統が、莖径が細く、花段数、花数も少なく中生、晩生系統より品質が劣った。

第1表 生育調査 (単位: cm, 節)

系 統	項 目	12月25日	1月25日	2月25日	3月28日
早生系統	草丈	14.8	49.8	62.4	67.4
	節数	3.8	11.8	18.3	20.9
中生系統	草丈	8.6	35.0	45.0	60.9
	節数	2.2	10.9	16.4	21.3
晩生系統	草丈	9.0	31.9	40.9	55.5
	節数	1.9	9.9	15.0	19.5

第2表 開 花 期

系 統	開花始	開花終	平均開花日
	月 日	月 日	月 日
早生系統	4 . 8	5 . 23	5 . 1.1 ± 2.8
中生系統	5 . 2	6 . 27	6 . 8.5 ± 4.0
晩生系統	5 . 26	7 . 1	6 . 15.6 ± 4.2

注) 晩生系統は7月1日以後花色悪く、調査を打ち切った。

第3表 切 花 形 質

系 統	切花長	莖 径	節 数	花段数	切花重	花 数	採花本数
	cm	mm	節	段	g	個	本/株
早生系統	67.9	2.6	20.1	1.8	12.7	9.3	2.6
中生系統	79.9	2.8	23.8	3.2	21.1	12.2	2.8
晩生系統	79.6	3.3	23.1	2.8	26.1	13.0	1.3